

背景

1

- 医療材料のディスポ化が進み医療廃棄物・感染性廃棄物の増加
- 感染症の種類により感染性廃棄物として取り扱っているとされているものの感染症の有無に関わらず全て感染性廃棄物として処理
- 感染性廃棄物の廃棄量の増大および高コスト

目的

2

- 感染性廃棄物の分別の徹底を図り廃棄量及び処理費用の削減を行う



図.7 バイオハザードマーク

- ① 液状又は泥状のもの（血液等）……………赤色
- ② 固形状のもの（血液等が付着したガーゼ等）………橙色
- ③ 鋭利なもの（注射針等）……………黄色



方法（取り組み内容）

3

➤ 分別内容の確認

一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物の分別およびコストについて運搬業者の契約内容確認

➤ 感染対策マニュアルの改訂

「感染性廃棄物」の項を法令・条例に基づき改定
新たに廃棄物分別表（詳細分類）を作成し全部署に配布、周知徹底を実施

➤ 職員教育

- 全職員を対象にQ & A方式にて「医療廃棄物分別について」をテーマとし5日間の研修会を実施
⇒質問に対し各部署をラウンドし、部署の特性に応じた指導を実施
看護師長会・副看護師長会による看護職員に対する周知徹底と指導の実施

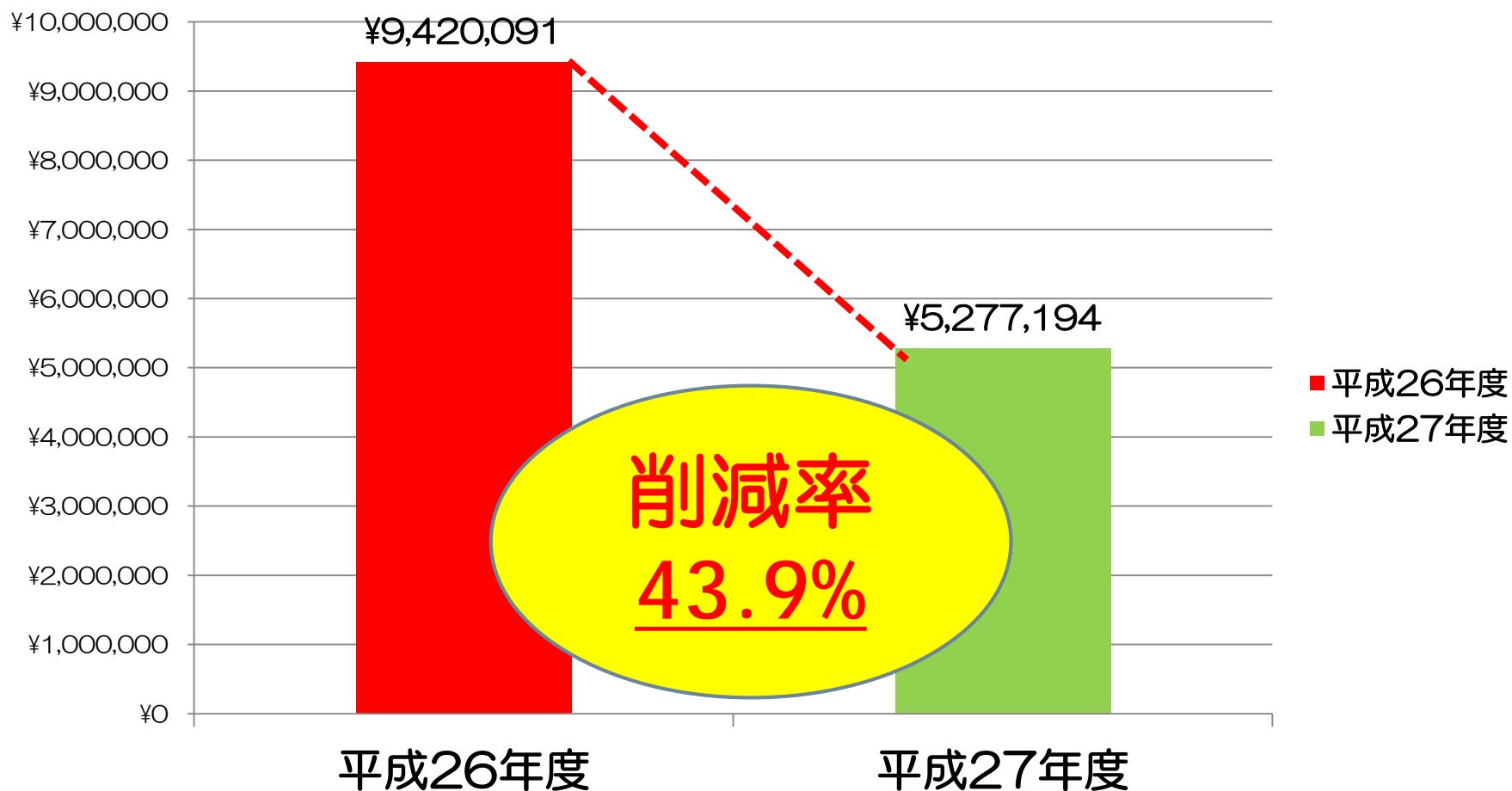
➤ チェックとフィードバック

- ICT環境ラウンド（1回/週）にてチェックを行いタイムリーにフィードバック
- 看護部長による抜き打ちラウンドにて直接指導の実施
- 部署に応じた表記方法の工夫

結果①

5

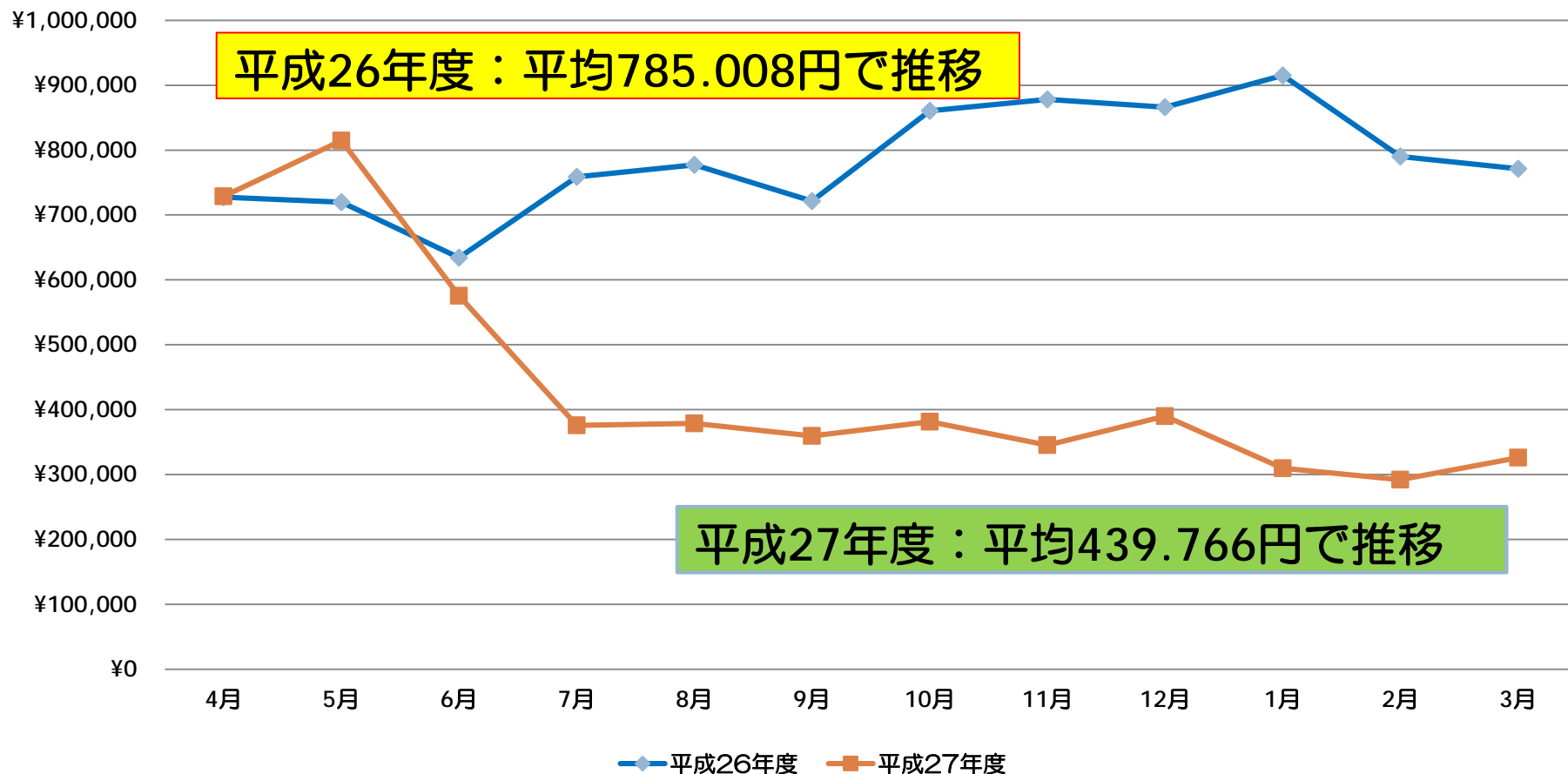
年度別感染性廃棄物廃棄コスト



結果②

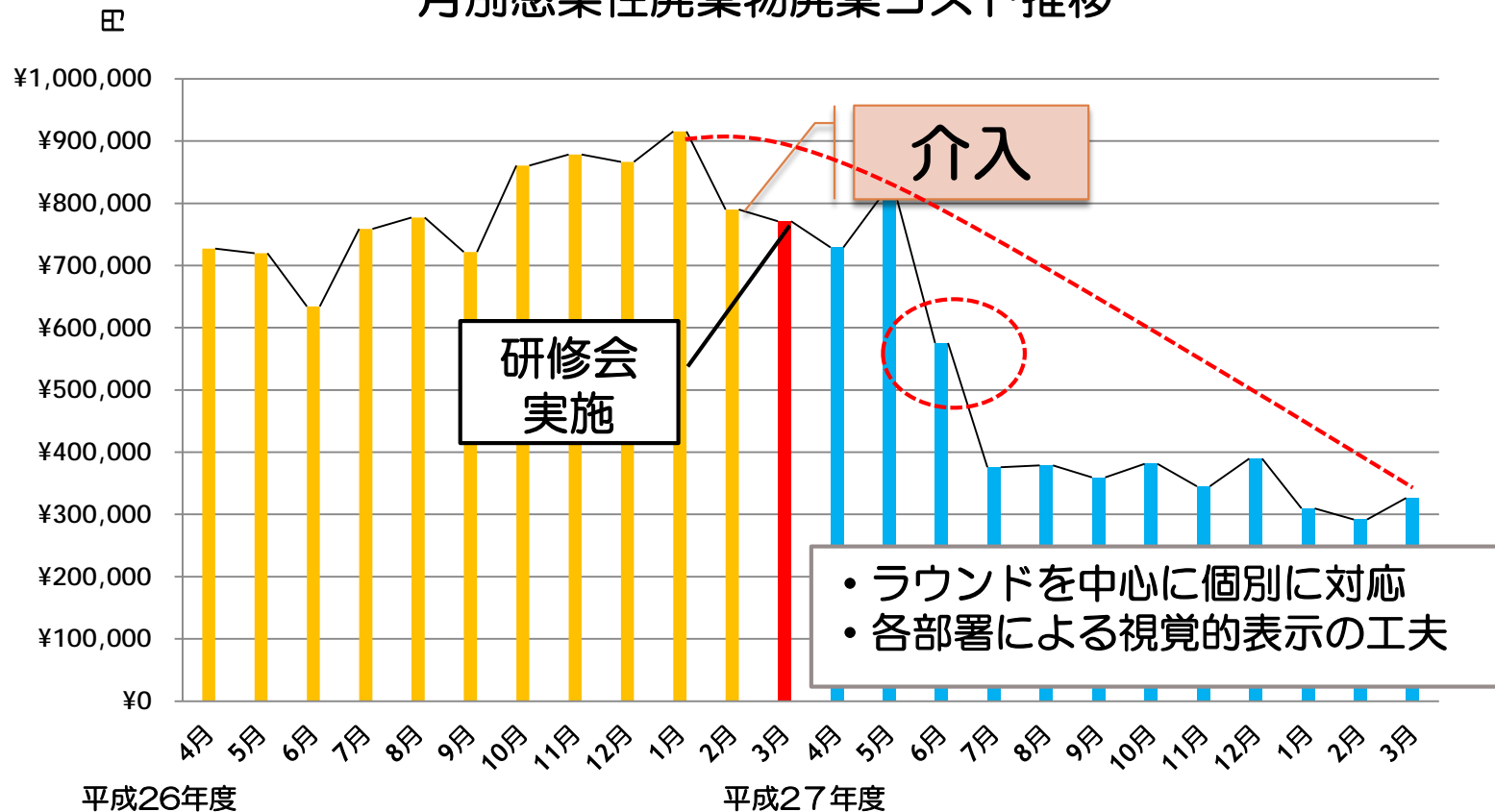
6

平成26年4月～平成27年3月 月別感染性廃棄コスト推移



結果③

平成26年4月～平成27年3月 月別感染性廃棄物廃棄コスト推移



平成26年～27年度

部署における分別表示/廃棄物分別表（改訂版）

分別表示

分別表



全体を表記した分別表



非感染性廃棄物として処理



鋭利物品を視覚的に表記



感染性廃棄物として処理

廃棄物分別表

尿とりパッド/オムツ廃棄分別表

黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> ガラス瓶（バイアル・アンプル・採血管） ガイドワイヤー 注射針（シリンジをつけたまま廃棄） 安全側溝付針、鋼針 インスリン注入用注射針 手術で使用したGIA、エンドカッター メス刀・縫合針
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> 注射針（シリンジをつけたまま廃棄） 安全側溝付針、鋼針 インスリン注入用注射針 メス刀・縫合針
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> 血液・体液が付着した防護具（手袋・マスク・エプロン・足袋など） 血液製剤ボトル・バッグ（ラインはボトルから放さない） 輸液ライン（ボトルから放さない） ドレーン類・排泄バッグ、バルーン・ウロバッグ ディスポーザブルパック 吸引チューブ、胸腔検体、検査用器、シャーレ ダイアライザー、透析回路、人工呼吸器回路 検体チューブなど ディスポシリンジ、泡盛・ケア・手術・検査等で使用したディスポ製剤 血液・体液が付着した衛生材料、検査カップなど 感染症および血液が付着したオムツ、尿とりパッドなど
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> 濡ごみ・便液、尿水の付いたティッシュ 血液、体液が少量あるいは付着していない衛生材料（絆創膏・綿棒・酒精綿・口腔ケア用品など） 霧室コア、医療機器に使用した物、防護具（サージカルマスクなど） シュレッターゴミ 生ごみ、木くず、繊維物
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> 外装（輸液セット、滅菌パックのフィルム部分） ポリ容器・弁当トレー・キャップ・ラップ 診察室用ボトル・看護ケア、医療機器で使用した消毒剤
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル 電池 割れたガラス、血など 粗大ごみ（自治体規定に参照）
黄	バイオハザード 黄	<ul style="list-style-type: none"> ダンボール 雑紙 新聞紙

黄	バイオハザード 黄	<p>※血液、感染症のない尿とりパッド・オムツ</p> <p>※廃棄の際には箱から取り出しビニール袋の口を閉じ廃棄</p>
黄	バイオハザード 黄	<p>※感染症および血液等が付着した尿とりパッド・オムツ</p> <p>※感染症は下記欄外を参照</p>

◎参照
※廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルより（原簿）
※以下は感染性廃棄物として取り扱う感染症（感染性法に特記）

- MRSA・感染症性肺炎（ノロウイルスやロタウイルスなど）・結核
- 腸管出血性大腸炎（例：0-167、0-111、0-26等のO群）
- 百日咳・麻疹・水痘・風疹

当院で比較的多く検出される感染症

- 細菌性髄膜炎・先天性免疫不全症・多剤耐性緑膿菌（MDRFP）・多剤耐性アシネバクター（MDRA）
- バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）・バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）
- ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）・肺炎球菌肺炎・RSウイルス感染症
- 流行性結核菌肺炎・肺炎性肺炎・急性出血性結核菌肺炎・A群溶血性レンサ球菌肺炎
- 敗血症・ヘルパンギーナ・手足口病・突発性赤痢・腸インフルエンザ（H6N1、HTN9）
- SARS・MERS・A型肝炎・E型肝炎・腸チフス・パラチフス・細菌性赤痢・アメーバ赤痢
- エボラ出血熱・クリミア・コンゴ出血熱・痘毒・急性灰白髄炎・ジフテリア・コレラ・炭疽
- 肉芽腫性肺炎・ベスト・マルブルグ熱・ラッサ熱
- サル痘・ボツリヌス症・オムスク出血熱・ニロウイルス感染症・鼻癌・肺炎球菌・日本脳炎
- ハンタウイルス感染症・西部ウマ脳炎・レプトスピラ症クリオウオスポリジウム症
- 創傷性出血性レンサ球菌肺炎・ジアルシア症
- 急性脳炎
- （ウエストニール熱、ダニ媒介熱、腹部ウマ脳炎、ペニスエラウ熱及びリクトバレー熱を除く）

考 察

- 前年度比43.9%の削減は平成27年度の入院患者の減少も影響したと考えられるが、ICT環境ラウンドおよび看護部長をはじめ各所属長が主体となり部署における表示の工夫、直接指導等が職員の行動変容に基づく意識改革へ大きく関わったと考えられる

結 論

- 院内ラウンドによる分別チェックの継続を行うとともに、新入職員に対する指導や医療廃棄物処理におけるミニレクチャーを開催
- 感染性廃棄物として廃棄する要件及び分別方法の徹底を図る
- 意識付けを目的とした廃棄物削減に向けたキャンペーンの実施や広報等を行い、さらなる周知徹底を目指す